



岐阜ロータリークラブのコロナ禍での運営について

発表者：岐阜ロータリークラブ
会長 所 洋士

2020~2021 年度岐阜ロータリークラブの会長となりました所洋士と申します。

岐阜ロータリークラブは、長年、例会開催を重んじ、太平洋戦争中であっても、名前を変え場所を変え、ロータリーの精神を守って例会を続けてまいりました。しかし、今回の新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、3月は例会の開催を2回にとどめ、今後どのように行うべきか検討しておりました。3月末に知事の不要不急の外出自粛の要請が出たことを機に、4月より休会することを決断しました。5月には書面決議による理事会を行いました。例会以外でも春の家族旅行やFMについても、中止や延期となっています。

6月からは、例会を再開いたしました。マスクの着用、入り口での手の消毒、また、都ホテルの通常の例会場より大きな会場で、ソーシャルディスタンスをとって行っています。

今年度につきましては、夏の納涼例会を中止とし、冬以降に状況をみながら、できることをやっていきたいと考えております。会員の規模が80名ほどで、Aグループの中では一番大きい規模のクラブということで、毎回の例会出席者が、50名を超える規模になります。大規模での会合について、どのレベルで休会とすべきか、判断が難しいと感じています。今後も、国や県からの自粛要請などがあれば、また、休会とせざるを得ないこともあるかと思いますが、しっかり対応していきたいと考えております。